

自由に外遊びを 笑顔あふれて

福島から米沢に拠点 NPO「青空保育たけの子」

東京電力福島第一原発事故後、拠点を福島市から米沢市に移して保育活動が続いている団体「青空保育たけの子」が、住友生命の震災復興応援特別賞を受けた。自由な外遊びをする子どもたちと向き合っていることが評価された。

福島市内で活動を始めたのは2009年4月のことだ。青少年の自殺が多いと聞いた代表の辺見妙子さん

東日本大震災6年

(56)が、幼いころに思いっきり体を動かし、遊びを作り出した経験がないことが原因かもしれないと考えたのがきっかけ。「何の制限も受けず自由に遊べる場が必要」と、自宅で仲間たちと始めたという。公園や河川敷で遊ぶ子どもたちは「実にイキイキとした笑顔」(辺見さん)だった。しかし11年3月に起きた



保育士らと遊んで楽しむ子どもたち＝米沢市の青空保育たけの子

「チャレンジ見守る」■ 地域交流の場にも

原発事故で状況が福島市内での活動場所。その一方で、原は「自分たち大人のとも思ったという。

原発に対する問題なく、傍観者だったじめの問題と同じ。の者が声を出すことまることがある。傍

いたことが一番の問た」と辺見さんは話その年の秋に米沢

古民家を借り、福島移動保育を始め々、福島市から約50動。13年にNPO法った後も事務所は福に置く。

今は米沢、山形面難した子どもたちを計10人を保育している山で虫を捕り、花を泥で遊ぶ。「危ない、ばかばかしい。大人の考えで行動をず、チャレンジを見のが変わらない方針週末は敷地内を「び場」として開放しや。ピザなどをつくるも開催。福島市やの親子、地域住民を交流の場になっいても評価された。辺見「子どもの命を預けて保育している。熱中する子どもたち声をあふれさせたいしている。